

住文化の継承と住生活文化学習に関する研究 — 1人1台端末環境のもとで伝統家屋の映像コンテンツを活用した 中学校家庭科授業の実践と考察 —

A Study on Housing Cultural Succession and Housing Life Culture Education:
Class Practices in Home Economics of Junior High School Using Video
Contents of the Traditional House with One Device per Person

鈴木 佐代

Sayo SUZUKI

家政教育研究ユニット

豊増 美喜

Miki TOYOMASU

福岡教育大学附属小倉中学校非常勤講師/
大分大学客員研究員

古田 慧

Akira FURUTA

元福岡教育大学大学院

有友 里沙

Risa ARITOMO

元福岡教育大学大学院

(令和4年9月29日受付, 令和4年12月20日受理)

抄録

本研究は、日本の住まいや暮らしの文化を次世代に継承していくために、地域に残る伝統的な住まいを教材化し、住教育に活かすことを目的としている。先行研究で開発した、日本家屋の映像コンテンツを用いて、1人1台端末の環境のもとで中学校家庭科の授業実践を行い、学習プリントと授業後アンケート調査による評価を行った。その結果、和室の構成や意匠を伝える360度カメラ画像は、伝統的な住まいを知るのにわかりやすいとの回答を得た。また、建具の開閉と縁側の動画は、ふすま、障子の開閉の動きと閉めた時、開けた時の違いがわかった、室内で感じる光や音が伝わったとの回答が得られ、日本家屋の空間の可変性や環境調整の工夫を理解するのに役立ったと言える。授業後には、日本の伝統的な住宅について92.5%の生徒が興味関心を持ち、さらに、名称を知らなかった部位の名称の由来や意味、住宅の構造や各部の形状、昔の暮らし方や住宅の洋風化などにも興味関心が広がった。

キーワード：住教育, 住文化, 1人1台端末, ICT, 中学校家庭科, 授業実践

I. はじめに

本研究は、日本の住まいや暮らしの文化を次世代に継承していくために、地域に残る伝統的な住まいを教材化し、住教育に活かすことを目的とし

ている。我が国の伝統的な住まいには、瓦、土壁、縁側、続き間、畳、襖をはじめ地域の気候・風土・文化に根ざした空間・意匠、構法・材料などの住まいづくりの知恵が息づいている¹⁾。しか

し、近年では伝統的な住まいづくりや暮らしの知恵は失われつつあり、若い世代が日本の住生活文化を体験する機会は少なくなっている^{2~4)}。一方、建築分野では、近年、持続可能な社会を重視する視点から、子育て支援や環境配慮など現代の住宅計画課題を解決するために「和室」を再評価し、現代住宅に生かそうとする研究や実例が見られるようになってきている⁵⁾。また、竹下は「戦後から進められた近代化の成果が定着した後、我が国の伝統的な住文化と住様式を捉えなおそうとする時代、単なる伝統的な「和様式」の復古・回帰ではなく、「WA 様式」として新しく展開する時代となった」と述べている⁶⁾。住まいの伝統や文化は、現在や将来の住まいや暮らしのありようにも示唆を与えるものであり、住教育で取り扱う重要な内容であると言える。

本研究では、実物を見る機会が少なくなっている伝統家屋を撮影し、日本の住生活文化に対する理解を深める映像コンテンツ教材を開発することを目的としている。筆者らは、先行研究⁷⁾に

おいて、和室の構成や意匠を伝える 360 度カメラ^{注1)} 画像の映像コンテンツと、引き戸の建具により空間と環境を調整する暮らし方を伝える動画の映像コンテンツを開発し、中学校家庭科住居分野の授業実践を行った。本論文では、この映像コンテンツを用いて、1人1台端末の環境のもとで授業実践を行った結果を報告する。また、先行研究で明らかにできなかった映像コンテンツに対する生徒の評価を考察する。

Ⅱ. 研究方法

1. 映像コンテンツの概要

授業で用いた映像コンテンツは、筆者らが2019年に出水麓武家屋敷群（鹿児島県出水市、重要伝統的建造物群保存地区）の税所邸で撮影した2種類の映像である。1つは、和室の構成や意匠を伝える360度カメラ画像（写真1）で、もう1つは、ふすま、障子の開閉の動きと、縁側からみた屋外（庭）の風景やきこえる音を体験する5つの動画である。暮らしに合わせて空間を



写真1 和室の構成や意匠を伝える360度カメラ画像（生徒の端末の画面）



写真3 活動の様子

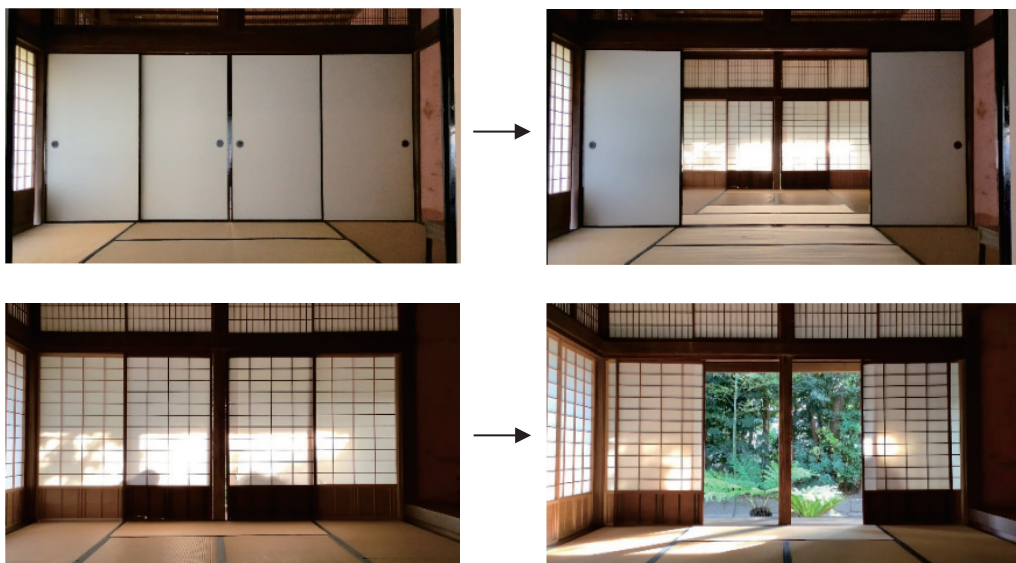


写真2 ふすま、障子の開閉の動きと開閉による空間の変化を伝える動画（動画の一場面を表示）

変化させるフレキシブルな住まい方や自然を利用した室内環境の調整手法を学ぶことを意図している。写真2にふすま、障子の開閉を撮影した動画の一場面を示す。

2. 授業実践

2022年1月25日に、福岡教育大学附属小倉中学校1年生3クラスを対象に、映像コンテンツを用いた「日本の伝統的な住まい」の授業（50分）を行った。授業者は、共同研究者でもある実践校の家庭科教員である。授業の流れを表1に示す。表1の学習活動の2および3では、日本の伝統的な住宅の各部位の名称と特徴、和室の広さの言い表し方を、モニターに映し出されるスライドとプリントを使用し、説明した。

学習活動の4では、360度カメラで撮影した和室の映像コンテンツを使用し、日本の伝統的な住宅の各部位の確認クイズを行った。授業アプリ「ロイロノート・スクール」を使用し、生徒それぞれの端末（iPad）で操作できるように、生徒に画像のURLのリンク先を示した。生徒は、リンク先の360度カメラ画像を各自の端末で操作し、映し出された和室の床の間の場所と、和室の広さを考える活動を行った。生徒の端末画面を写真1に、活動の様子を写真3に示す。床の間が映っている画面のスクリーンショットを「ロイロノート・スクール」の提出箱に提出させ、回答状況や生徒の理解度を把握した。

学習活動の5では、教室のモニターで、ふすま、障子、雨戸の開閉の動きと、縁側から見た屋外（庭）の風景や音を体験する映像コンテンツを再生し、建具の開閉と空間の変化、室内の光の様子やきこえる音を体感させながら、伝統家屋の空間の特徴や昔の暮らし方について説明した。

学習活動の6では、日本の伝統的な住まいや暮らしの中で、現代に残っているものや知恵、工夫を探し、なぜ現代に受け継がれているのか考える活動を行った。

最後の学習活動7では、日本の伝統的な住まいについて、気がついたことや疑問に思ったこと、今後残していきたいもの等を学習プリントに記述し、授業のまとめとした。その後、授業後アンケート調査を行った。

3. 映像コンテンツ教材と授業の評価方法

1人1台端末の環境のもとで伝統家屋の映像コンテンツを用いた授業の効果は、学習プリントの記述内容と授業後アンケート調査により考察し

た。各々の調査項目を表2に示す。自宅でオンライン授業を受けた数名の生徒を除き、対面授業に出席した106名から回答を得た。学習プリントの自由記述および授業後アンケート調査はすべて無記名で行い、個人を特定しない方法で分析した。また、住教育の研究のために使用することを説明した。

4. 回答者の住宅属性

アンケート調査では、生徒の和室空間の経験の程度を知るために、生徒の自宅の住居形態と和室の形態を調査した。その結果を表3に示す。住居形態は、戸建住宅が58人（54.7%）、集合住宅が46人（43.4%）、不明が2人（1.9%）である。和室の形態は、住居形態に関わらず「和室が1室」が6割以上と多く、また「和室はない」が2割以上を占める。「続き間がある」や「和室が複数ある」のは、戸建住宅であっても少数である。

Ⅲ. 結果及び考察

1. 映像コンテンツに対する生徒の評価

(1) 和室の360度カメラ画像について

360度カメラで撮影した和室の画像（写真1）を各自の端末画面で色々なアングルから拡大・縮小させクイズに答える学習活動については、生徒は授業で「ロイロノート・スクール」を日常的に使っているため、全員問題なく操作できた。また、アンケート調査の回答では、360度カメラの画像を使ったクイズは「空間の疑似体験ができた」「面白かった」「日本の住まいの勉強になった」が各々約5割を占めた（図1）。また、伝統的な住まいの空間を知るのに、360度カメラ画像はわかりやすかったかについては、「わかりやすい」（63.2%）と「少しわかりやすい」（30.2%）を合わせて93.4%となった（表4）。

(2) 建具の開閉および縁側の動画について

ふすま、障子、雨戸などの建具の開閉と、縁側の動画について、当てはまることを選択する設問の結果を表5に示す。選択肢の中で「ふすま、障子、雨戸の開閉の動きがわかった」「ふすまを閉めたときと開けたときの違いがわかった」「障子を閉めたときと開けたときの違いがわかった」の3項目は7割以上の生徒が、また「縁側がどのような空間であるか、わかった」「部屋の中の明るさや光の感じが伝わった」「静けさや、聞こえる音が伝わった」の3項目は、7割弱の生徒が選択した。また、写真（静止画）に比べて、日本の住まいの特徴が理解しやすいかについては、「と

表1 授業の流れ

想定する学習活動	教師による学びの支援	時間
1. 本時の内容を確認する。	・本時は、日本の伝統的な住まいについて学ぶことを示す。教科書のページを提示する。	2分
2. 過去のアンケート結果から集計された「日本の伝統的な住宅の各部位の正答率ランキング」を、順位を予想しながら確認する。	・プリントを配布して、日本の伝統的な住宅の各部位の名称と、和室の広さの表し方について、どの程度わかるのか各自確認させる。 ・前年の中学1年生に実施したアンケート結果より、日本の伝統的な住宅の各部位の正答率の順位をランキング発表の形式で示す。正答率が一番低かったのは「鴨居」であること等を示し、知らなかった部位や、わからなかった語句への興味をひろげる。	6分
3. 日本の伝統的な住宅の各部位の名称と、和室の広さの言い表し方を知る。	・日本の伝統的な住宅の各部位について名称を確認し、プリントに記入させる。 ・生徒には、それぞれの部位の特徴や役割を考えさせ、教師が補足の説明をする。 ・日本では、畳の枚数で部屋の広さを言い表してきたことを伝える。	12分
4. 映像コンテンツ（360度カメラで撮影した和室の空間構成と意匠の写真）を使用し、部屋の広さ言い表し方のクイズ、及び日本の伝統的な住宅の部位の確認クイズより、理解できているかを確認する。	・360度カメラで撮影した和室の画像を、生徒それぞれの端末（iPad）で操作できるように、授業アプリ「ロイロノート・スクール」を使用し、生徒に画像のURLのリンク先を示す。 ・生徒にリンクをクリックして画像にアクセスすることを指示する。全ての生徒が画像にアクセスできているかを確認した上で、画像の拡大や縮小などの操作方法を伝える。 ・提示した部屋の広さの言い表し方（部屋の広さは何畳か）を問い、答えさせる。 ・日本の伝統的な住宅の部位について、床の間はどこかを問い、各端末で床の間が映っている画面のスクリーンショットを撮るように指示する。 ・画像は、ロイロノート・スクールのアプリ内の提出箱に提出させ、提出された画面を見ながら、回答状況や生徒の理解度を把握する。	6分
5. 映像コンテンツ（建具の開閉と空間のつながりの変化を示す動画）を使用する ・ふすま、障子の特徴や役割を、動画で開閉の動きや空間の様子を見て体感する。 ・縁側から見た風景やきこえる音を、動画で体験しイメージする。 ・雨戸を閉める場面を、動画で体感し、雨戸の役割を考える。	・ふすまの開閉により、続き間を1部屋にしたり2部屋に分けたりできることに気づかせる。また、昔は自分の家で冠婚葬祭を行っていたことや、空間を広く使うときはふすまを取り外すことができることも伝える。 ・障子は開けたときには室内から外の風景を見ることができ、閉めたときには、外の光をやわらかく取り入れる知恵に気付かせる。 ・縁側の動画の視聴前に「耳を澄ませて静かにきいてみてください」と発問し、視聴後に何がきこえたかを発表させる。葉擦れの音や、鳥のさえずりが聴こえていることから、縁側では自然の風景だけでなく音も楽しんでいたイメージを持たせる。 ・雨戸はなぜ閉める必要があるのか、雨戸の役割を考えさせ、発表させる。発言を受けて、寒さ対策や防犯対策について説明する。	11分
6. 日本の伝統的な住宅の中で、現代の住宅に残っているものや知恵、工夫を探し、なぜ現代に受け継がれているのか考える。	・撮影地の出水麓重要伝統的建造物群保存地区について説明し、日本の伝統的な住文化を残そうとしている事例を知る。また、身近にある日本の住まいや暮らしの知恵で残っているものがあることに気づかせる。 ・現代の洋風の住宅にも、畳や障子が使われている事例を示し、なぜ現代に受け継がれているのか考える。	3分
7. 授業のまとめと授業後アンケートを行う。 次時の準備物を確認する。	・授業のまとめのプリントを配布し、日本の伝統的な住まいについて気づいたことや考えたこと、疑問に思ったこと・わからなかったこと、今後残していきたいものとその理由等を考えさせる。 ・授業後アンケートに記述させる。 ・次時の予告を行う。	10分

表2 学習プリントおよびアンケート調査の項目

学習プリントの項目 (自由記述)
日本の伝統的な住まいについて、気づいたことや考えたこと、印象に残ったこと
日本の伝統的な住まいについて、疑問に思ったこと、わからなかったこと
日本の伝統的な住宅や暮らしの中で、今後残していきたいもの
授業後アンケート調査の項目
生徒の自宅の住居形態、和室の有無等
日本の伝統的な住まいに対する興味関心の変化
建具の開閉の動画は、写真に比べて理解しやすいか
建具や縁側の動画について当てはまること
360度カメラ画像をタブレットで見る操作について
360度カメラ画像を使った授業のわかりやすさ
360度カメラ画像を使ったクイズについて

表3 回答者の住居形態別 和室の形態

	戸建住宅 (n=58)	集合住宅 (n=46)	住居形態 不明(n=2)	全体 (n=106)
和室1室	65.5	60.9	50.0	63.2
和室なし	20.7	28.3	0.0	23.6
続き間	6.9	0.0	0.0	3.8
和室複数	6.9	6.5	0.0	6.6
その他	0.0	2.2	0.0	0.9
不明	0.0	2.2	50.0	1.9
総計	100.0	100.0	100.0	100.0

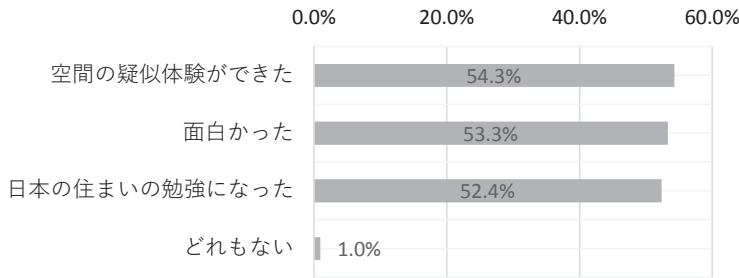


図1 360度カメラ画像を使ったクイズについて (複数回答, n=105, 不明除く)

表4 伝統的な住まいの空間を知るのに、360度カメラ画像はわかりやすかったか

	人数	%
わかりやすい	67	63.2
少しわかりやすい	32	30.2
あまりわからない	5	4.7
全くわからない	0	0.0
無回答	2	1.9
全体	106	100.0

表5 建具や縁側の動画について当てはまること

(複数回答, n =106)

	人数	%
ふすま、障子、雨戸の形や色がわかった	67	63.2
ふすま、障子、雨戸の開閉の動きがわかった	79	74.5
ふすまを閉めたときと開けたときの違いがわかった	77	72.6
障子を閉めたときと開けたときの違いがわかった	79	74.5
縁側がどのような空間であるか、わかった	74	69.8
部屋の中の明るさや光の感じが伝わった	73	68.9
静けさや、きこえる音が伝わった	74	69.8
無回答	7	6.6

表6 建具の開閉の動画は、写真(静止画)を見るのに比べて、日本の住まいの特徴が理解しやすいか

	人数	%
とても理解しやすい	60	56.6
やや理解しやすい	41	38.7
変わらない	3	2.8
理解しにくい	0	0.0
無回答	2	1.9
全体	106	100.0

でも理解しやすい」(56.6%)と「やや理解しやすい」(38.7%)の合計が95.3%を占めた(表6)。音声を含む動画を用いることで、日本の住まいの特徴である空間の可変性や、室内と屋外とのつながりを理解し、また、室内の光や音の様子を感じることができたと言える。

2. 日本の伝統的な住宅に対する興味関心の変化

日本の伝統的な住宅に対する、授業前後の興味関心の変化を図2に示す。「授業前は興味関心が高かったが、授業後は興味関心をもった」の割合は60.4%であり、授業前から興味関心があった生徒(32.1%)も含めると、授業後に92.5%の生徒

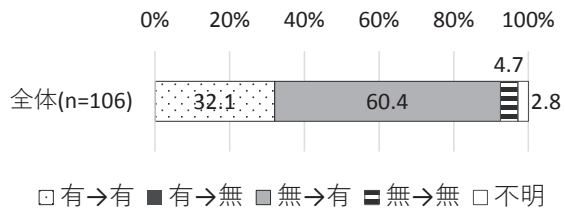


図2 日本の伝統的な住宅に対する授業前と授業後の興味関心の変化
(図中の凡例は、授業前→授業後を示す)

が興味関心を持った。

3. 日本の伝統的な住まいに関する自由記述の分析

(1) 日本の伝統的な住まいについて、気づいたことや考えたこと、印象に残ったこと

学習プリントの「日本の伝統的な住まいについて、気づいたことや考えたこと、印象に残ったこと」の自由記述は、テキストマイニングソフトウェア KH Coder を用いて分析した。上位30位の頻出単語と出現回数を表7に示す。上位30位には、「工夫」「日本」「住まい」「家」「伝統」「ふすま」「障子」「雨戸」など、住まいに関する名詞と、「思う」「知る」「分かる」「残る」「感じる」などの動詞が含まれている。

よく一緒に出現する語を線で結んだ共起ネットワークを図3に示す。出現数による語の取捨選択は、最小出現数を4、描画する共起関係の選択は上位60に設定した。図3の[1]のまとめには「日本」「伝統」「住まい」「家」「工夫」「気候」「名前」「思う」「知る」「分かる」の語が含まれている。これらの語は「伝統的な住まいでは色々工夫をとり入れている」「私の家にはないけれど、おばあちゃんの家にはあって、こんなに工夫に興味があったことを知りました」「日本の伝統的な住まいについて、まったく知らなくて、驚きました」「伝統的な住まいは、それぞれの部分に工夫があり、日本の気候などに合っていたからこそ長年受け継がれていったものだったということが分かった」「日本の住まいにはいろいろな名前があった」など、日本の伝統的な住まいのさまざまな工夫や名前を知った(これまで知らなかった)という文脈で用いられている。

[2]のまとめには「ふすま」「障子」「部屋」「開ける」「閉める」「変わる」「光」「風」「広い」「たくさん」「使う」「面白い」の語が含まれている。これらの語は、「ふすまや障子の開け閉めによって、部屋の雰囲気が変わったりする」「障子

表7 「日本の伝統的な住まいについて、気づいたことや考えたこと、印象に残ったこと」の自由記述における上位30位の頻出単語と出現回数

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
思う	48	光	9
工夫	36	残る	9
日本	31	使う	9
住まい	29	自然	8
家	26	印象	7
伝統	25	感じる	7
知る	20	畳	7
ふすま	19	和風	7
障子	19	いろいろ	6
分かる	13	考える	6
今	12	敷居	6
たくさん	11	部屋	6
雨戸	11	防犯	6
昔	11	名前	6
多い	10	役割	6

を閉めた時、完全に光を遮るのではなく、ほんやりした感じの光が差しこむところが印象に残った」「雨戸や障子は風を調節したり、景色を変えたりする役目があると分かりました」「風や日光などの自然の物をたくさん取り入れていた」「ふすまを開けると広く見えたり、使い道が変わったりして面白かったです」などの文脈で用いられている。これらの記述より、日本の伝統的な住まいでは、建具の開閉により空間や環境を調整するという理解したことが読み取れる。

[3]のまとめには「今」「昔」「現代」「人」「役割」「畳」「良い」「いろいろ」の語が含まれている。これらの語は、「昔の家にはさまざまな工夫があり、その工夫は現代でも使われている」「昔の人が、いろいろな工夫をして生活していたということがとても面白かった」「今でも、障子や畳を使っていることは良いことだと思った」「畳や雨戸など、少しだけ形を変えて現代にも残されていることが分かりました」「一つの工夫にたくさんの役割があったので、昔の人は考えているなと思った」のように、昔の人はいろいろ工夫していた、昔の工夫は現代でも使われている、形を変えて残っているという文脈で用いられている。

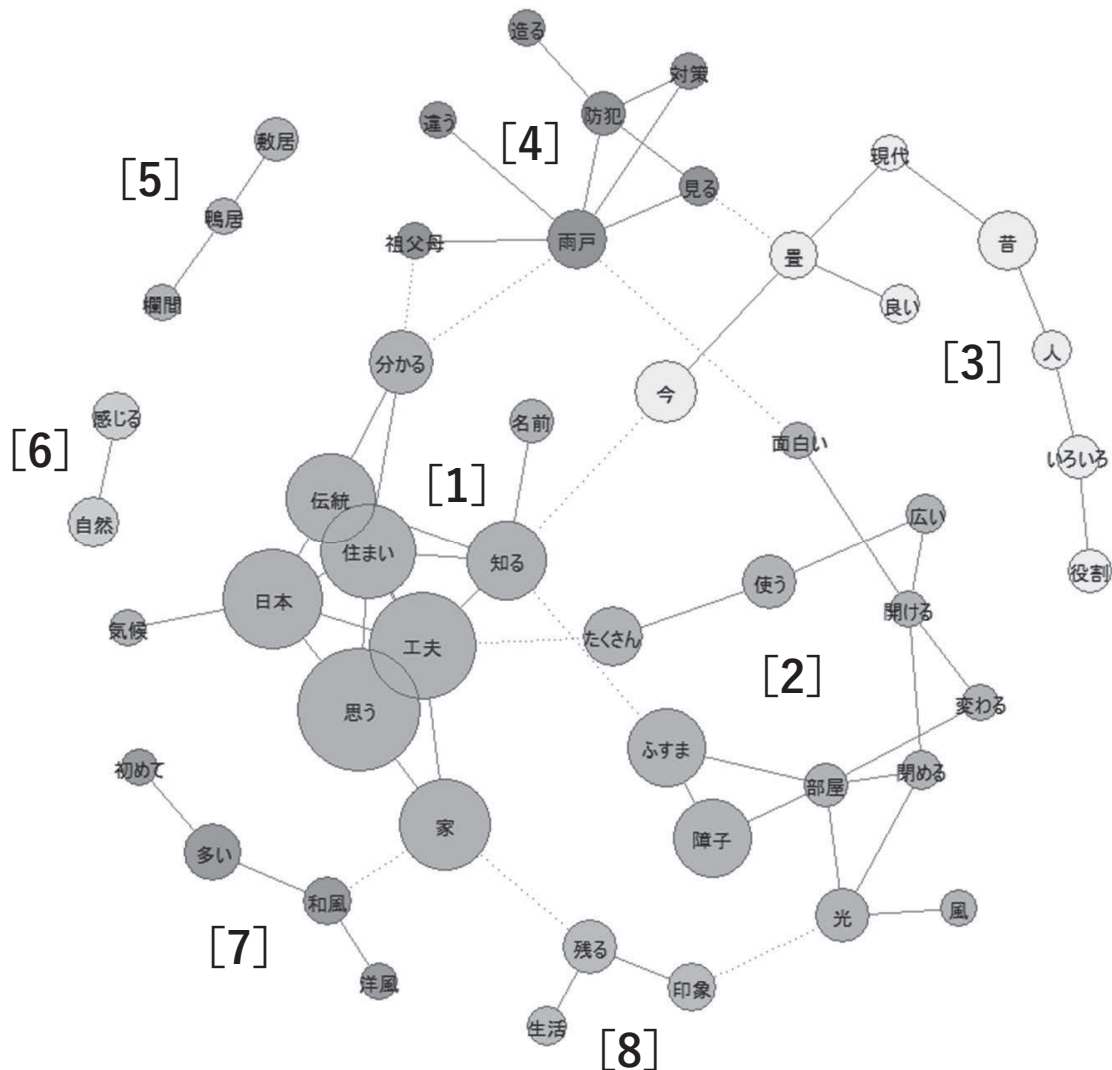


図3 「日本の伝統的な住まいについて、気づいたことや考えたこと、印象に残ったこと」の自由記述の共起ネットワーク

[4] のまとめには、「雨戸」「防犯」「対策」「祖父」「見る」「造る」「違う」などの語が含まれている。これらの語は、「雨戸の開け閉めを初めて見た、とても面白く又防犯効果まであると思っていた」「雨戸が想像の何倍も大きかった。防犯の役割があるとは思っていなかった」「雨戸で防犯対策をしているのを知って、「全て、ちゃんと目的（雨戸が防犯・雨風のしぎなど）があって造られているんだなと思った」「畳や雨戸など、少しだけ形を変えて現代にも残されていることが分かりました。祖父や自分の家にもまだ気づいてない住まいの特徴があるかもしれないと思いました」など、雨戸の役割を知ったという文脈で用いられている。

[5] のまとめには「敷居」「鴨居」「欄間」の

3語が含まれている。これらの語は「鴨居と敷居が2つで1組という部分のわりやすさ、興味をもつことができた」「鴨居や敷居などは知らなかったので、1つ1つに名前があるんだな～と思いました」「鴨居と欄間は知らなかった」など、日本家屋の知らなかった部位と名称を知った、興味を持ったという文脈で用いられている。

[6] のまとめには「自然」「感じる」の語が含まれ、「日本の伝統的な住まいは、自然が近くに感じられる造りになっている」「外と中が繋がっていると自然を感じやすいと思いました」という文脈で使われている。

[7] のまとめには、「和風」「洋風」「多い」「初めて」の語が含まれている。これらの語は、「和風の住まいの部位の名称が思っていたものと

違っていたり、初めて聞くものも多くて驚いた」
「最近の家は洋風の住まいが多いので、和風の住
まいについてはあまり知らなかったけど、」など、
和風の住まいについて知らなかった、初めて聞いた
という文脈で用いられている。また、「いろいろ
工夫があったけど、和風の方がいいものや、洋
風のほうがいいものがありました」のように和風
と洋風の住まいを比較した記述もあった。

[8] のまとめには、「印象」「残る」「生活」
の語が含まれている。これらの語は、「畳や障子
など今の生活に取り入れられているものもあると
いうことが印象に残りました」「今は、すっかり
生活用式も変わっていたけど、まだ、昔の家が
残っていたりするんで、大事にしたいと思った」
など、印象に残った、あるいは昔の住まいや生活
がまだ残っている、という文脈で用いられている。

(2) 日本の伝統的な住宅や暮らしの中で、今後 残していきたいものとその理由

「日本の伝統的な住宅や暮らしの中で、今後残
していきたいもの」の自由記述には、100名の生
徒がのべ122件の回答を記入した。生徒が考え
る、残していきたいものの一覧を表8に示す。残
したいもの上位5位に挙がったのは、「畳」(36
人)、「障子」(20人)、「縁側」(13人)、「ふすま」
(12人)、「床の間」(11人)である。これらを残
していきたい理由を見ると(表8)、「(畳)日本
の住まいといえば、畳のイメージがあるから」
「(縁側) 親戚の家に行ったときに座るとほっとす
るし、自然を感じられる」など自身の経験やイ
メージに基づいた理由のほか、「(障子) 明るさの
みを取り入れて、外からは中が見えないという便
利な機能だから」「縁側は外と中を繋ぐ役目がある
ので残したい」「(ふすま) 部屋を上手に使える

表8 今後残していきたいものと、上位5つの理由

(数値は回答件数)

残したいもの		残していきたい理由
畳 36	畳	<ul style="list-style-type: none"> ・保温性と吸湿性があり、便利。自然の香りがして、リラックスできる。 ・保温性と吸湿性があり、なんとなく落ち着くから。 ・日本の気候にとっても適しているし、木の床よりも自分は落ち着くから。 ・日本の住まいといえば、畳みたいなイメージが自分の中にあるから ・畳があることで和風な部屋になる。 ・畳は多くの人を知っていて、いろいろな家にもあるから。
障子 20		
縁側 13		
ふすま 12		
床の間 11		
すべて 6		
和室 5	障子	<ul style="list-style-type: none"> ・開けた時の景色と閉めた時のおだやかさがいいから ・明るさのみを取り入れて、外からは中が見えないという便利な機能だから。 ・障子を閉めると、まっくらになるのではなくて、和紙によってやわらかい光が入っていて、その光のかげんが好きだったから。
欄間 4		
敷居 2		
すだれ 2		
雨戸 1		
建物 1	縁側	<ul style="list-style-type: none"> ・自然を感じることができて、日本独自の文化だから。 ・自分の家には無いけど、親戚の家に行ったときなどに座ると、ほっとするし、ちょっとした自然を感じられるから。 ・縁側は外と中を繋ぐ間の役目があるので残したい。
知恵 1		
工夫 1		
懐かしさ 1		
便利なもの 1	ふすま	<ul style="list-style-type: none"> ・部屋を上手に使えるのでこれからの社会に役立ちそうだから。 ・個々に分かれた部屋を広く使えるということが便利だと思ったから。
文化 1		
良い点 1		
使い方 1	床の間	<ul style="list-style-type: none"> ・掛け軸で季節のうつろいを感じられるし、日本の文化がよく表われているから。 ・床の間には、日本の刀とか日本独自をものが飾れるので残していきたい。
名称 1		
日本語 1		
総計 122		

のでこれからの社会に役立ちそうだから」のように、授業で学習した機能や住まい方に基づいた理由が説明されていた。

4. 日本の伝統的な住まいについて、疑問に思ったこと、わからなかったこと

「日本の伝統的な住まいについて、疑問に思ったこと、わからなかったこと」の自由記述には、106名中72名(67.9%)が回答した。回答の一部を表9に示す。住宅の材料や構造、各部の名称の由来、役割や意味、形状や柄の理由、昔の暮らし方(冷暖房、物の置き方、防犯・防災など)、住まいの洋風化など、さまざまな疑問が記述されており、伝統的な住まいや暮らし方に興味・関心が広がったことが窺える。また、授業で説明しなかったが映像に写っていた部位についても疑問が出されていた。生徒それぞれが感じた疑問を調べる活動を加えることにより、さらに学習を深めることができると考えられる。

表9 日本の伝統的な住まいについて、疑問に思ったこと、わからなかったこと(回答の一部)

- ・なぜ木製なのか
- ・何故家が地面に直接建てられていないのか
- ・住まいのつくり方
- ・なぜ昔の家は瓦なのか
- ・格子の役割
- ・欄間など住まいの部位の名称の由来、意味を知りたい
- ・建物の数え方で、1棟、2棟…というものがあるが、屋根にある棟に由来しているのか
- ・台風などの自然災害に弱そう
- ・防犯は雨戸だけでできるのか
- ・畳の敷き方
- ・どうしてふすまや障子等はあの形になったのか
- ・なぜふすまや障子を使い分けるのか
- ・床の間は飾るためだけにあるのか
- ・床の間の隣の空間は何か
- ・日本は他の国と違い、なぜ床に座る習慣があるのか
- ・一部屋だけ暖房、冷房したいときに欄間があったらもったいなくないか
- ・置物やもち物はどこに置かれていたのか
- ・なんで今の家は洋式なのか、なぜ伝統的な家がなくなるのか
- ・他にどのような文化があるのか。

IV. まとめ

先行研究で開発した伝統家屋の映像コンテンツを用いて、1人1台端末の環境のもとで、中学校家庭科「日本の伝統的な住まい」の授業を行い、その効果を考察した。

映像コンテンツについて、和室の構成や意匠を伝える360度カメラ画像は、ロイロノート・スクールを使用し、生徒に画像のURLのリンク先を示すことで、専用アプリを入れることなく使用できた。生徒は、自身の端末で360度カメラ画像を操作し、確認クイズに回答することができた。アンケート調査では、9割以上の生徒が、伝統的な住まいの空間を知るのにわかりやすいと回答したが、空間の疑似体験ができたという回答は5割に留まった。

建具の開閉と縁側の動画については、約7割の生徒が、ふすまと障子を開けたときと閉めたときの違いがわかった、室内で感じる光や音が伝わったと回答し、9割以上の生徒が、写真(静止画)に比べて日本の住まいの特徴が理解しやすいと回答した。動画を用いることで、写真(静止画)では伝わりにくい、引き戸の開閉の動きと開閉による空間の変化や、室内で感じる光や音を伝えることができ、伝統家屋の空間の特徴や暮らし方について理解を深めるのに役立ったと言える。自由記述「日本の伝統的な住まいについて、気づいたことや考えたこと、印象に残ったこと」にも、障子、ふすまの開閉に関する記述や、自然を感じるといった記述があり、本授業実践が意図した、引き戸の建具による空間の可変性と環境調整の工夫を理解したことが窺えた。

また「今後残していきたいもの」の自由記述では、畳、障子、縁側、ふすま、床の間が上位に挙がり、残していきたい理由には、自身の経験やイメージに基づいた理由だけでなく、授業で学習した住宅各部の機能や住まい方に基づいた理由が説明されていた。

授業実践後は、92.5%の生徒が伝統的な住宅に対して興味関心を持つようになったが、「疑問に思ったこと、わからなかったこと」の自由記述には多岐にわたる回答があり、興味関心が広がったことが窺えた。授業後に生徒が感じた、日本の伝統的な住まいに対する疑問や知りたい内容を活かした授業や学習活動を検討したい。

住生活文化の学習では、地域に残る古民家などを活用した実物の見学や空間体験が重要であることは言うまでもないが、これに代わる手法として、映像コンテンツを用いた授業は一定の効果があることが確認できた。今後は、日本の住文化の他の要素にも着目して映像コンテンツ教材を増やし、住教育の充実を図りたい。

謝辞

本研究をすすめるにあたり協力いただきました、出水籠武家屋敷群の関係者の皆様、アンケート調査に協力してくださった中学校の皆さまに、記して深謝の意を表します。

補注

注1) 全天球カメラ, 全方位カメラとも称される。

引用文献

- 1) 国土交通省「住宅：和の住まいの推進」, https://www.mlit.go.jp/jutakukentiku/house/jutakukentiku_house_tk4_000078.html(参照2021年9月23日)
- 2) 奥田千尋, 碓田智子「日本の住文化を伝えるための住教育に関する研究 小学生のいる家庭における伝統的住文化の継承実態と保護者の住意識」, 平成22年度日本建築学会近畿支部研究発表会, pp.701-704, 2010年6月
- 3) 有友里沙, 古田慧, 田中憂希, 鈴木佐代, 豊増美喜「住生活文化の継承と住教育に関する研究(第3報) 伝統的な住まいとまち並みに関する中学生の経験と意識」, 日本家政学会第72回大会研究発表要旨集, p.78, 2020年
- 4) 鈴木佐代, 有友里沙, 古田慧, 豊増美喜「住生活文化の継承と住教育に関する研究(第5報) 教員養成大学学生の住生活文化の経験と継承意識」, 日本家政学会第73回大会研究発表要旨集, p.70, 2021年
- 5) 高田光雄「『和室』を生かす現代住宅」2021年度日本建築学会大会(東海)建築計画部門研究協議会資料『日本の中の和室, 世界の中の和室-その現在と将来-』, pp.29-34, 2021年9月
- 6) 竹下輝和「日本の文化とこれからの集合住宅」新建築社, 新建築2018年11月別冊『臨海住宅地の誕生/福岡市のシーサイドももちとアイランドシティを通じて考える』, p.101, 2018年
- 7) 豊増美喜, 古田慧, 鈴木佐代, 有友里沙「住文化の継承と住生活文化学習に関する研究-伝統家屋の映像コンテンツ開発と中学校家庭科での授業実践-」福岡教育大学紀要, 第71号, 第6分冊, pp.27-34, 2022年3月